



# えどがわボランティアセンターだより

出会い  
ふれ合い  
助け合い

令和5年12月発行  
第63号

【発行】

公益財団法人えどがわボランティアセンター  
〒132-0031 江戸川区松島1-38-1 グリーンパレス  
電話:03-5662-7671 FAX:03-3653-0740

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



江戸川区は、誰もが安心して自分らしく暮らせる共生社会の実現に向けてSDGsに積極的に取り組んでいます。

ここでも  
ボランティア①

## 特別養護老人ホームでボランティア活躍中! 「なぎさグループ」の横内 博さんにインタビュー



### 1 きっかけ

昭和54年頃、江戸川区の障がい者団体の近所の方から男性ボランティアの手が欲しいので手伝ってくれないかと声を掛けられたのがきっかけでした。その頃は男性ボランティアは少なく、ボランティアへの理解もない時代でした。当時、私はサラリーマンをしていましたので、先ずは活動が可能な土曜日からはじめました。

昭和56年、ボランティア活動に少し慣れてきたころ、特別養護老人ホームなぎさ和楽苑にボランティアで清掃に行くようになりました、「なぎさグループ」に入会し、40年が過ぎました。

### 2 「なぎさグループ」での活動

「なぎさ和楽苑」では、シーツ交換、洗濯物整理、行事への参加、「うらやす和楽苑」ではデイサービス利用者とのお話し相手をしています。

また、区民まつりでは第4回から模擬店を出店していて、当日は和楽苑の職員の方が手伝ってくれるという良い関係ができていて、とてもボランティア活動がしやすい環境が整っています。

コロナの影響で、和楽苑での活動はまだ居室でのお話し以前と同様にという状況ではありませんが、担当職員と相談しながら安全安心を心掛けて活動をしています。

### 3 幅広い活動

平成24年から区福祉ボランティア団体協議会の運営委員、さらに平成28年からは会計監査を担当しています。協議会では普及推進部会の仲間とグループ運営の相談等ができる、良き仲間に恵まれていることをうれしく思っています。

また、出前ボランティアで児童・生徒と接することは楽しみのひとつでもあります。さらに、「ボランティアセンターだより」の町会・自治会への配付ボランティアも行っています。

平成26年に永年に亘るボランティア活動に対し江戸川区長から、また平成29年には東京都知事から感謝状をいただきましたことも自分の活動を振り返ると、大変感慨深いものがあります。

### 4 今後に向けて

ボランティア活動を始めた頃は、人さまの役に立つ良いことをしているのだと思いあがった気持ちでいましたが、今はボランティア活動は何のことない自分が成長することなのだということに気づきました。現在、なぎさグループは10人で活動をしていますが、仲間になって是非一緒に活動をしていただけた幸いです。

今まで永くボランティア活動ができたのは、心優しい仲間と和楽苑のスタッフ、そして何よりも家族の協力があってのことだと思って感謝しています。

これからも微力ながら、仲間と一緒に楽しく、自由で創造的な発想でボランティア活動を続けていきたいと考えています。

特養ホームの職員と一緒に  
なぎさグループで  
区民まつりに参加



横内 博さん  
(ボランティアセンターにて)



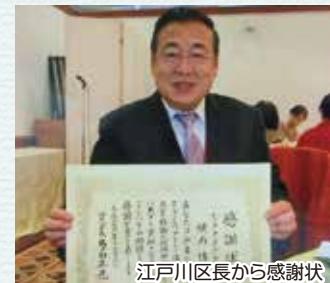
なぎさ和楽苑でのシーツ交換



出前ボランティアにて



職員と一緒に撮影(最前列左から4番目)



江戸川区長から感謝状

問合せ先

(公財)えどがわボランティアセンター  
03(5662)7671

「夏のボランティア体験」に参加いただいた、三洋商事株式会社(東葛西)の鹿志村 愛(かしまむら あい)さんと下谷 優花(したや ゆうか)さんに  
お話を伺いました。



### <会社の紹介>

三洋商事株式会社の経営理念が“地球に「ありがとう」を伝える企業”ということで、産業廃棄物処理を機械に頼らずに人の手(手サイクル)により解体・分別をし、97%以上のリサイクル率を維持しています。環境にも人にも優しいリサイクルを目指しています。

当社は、ボランティア活動の企画・開催や、近隣清掃活動、社内のSDGsプロジェクト推進、環境教育活動などにも力を入れています。学生向けの「SDGsスクール」では、地球環境問題や社会的課題についてお話をする活動を行っていて、業界の社会的地位の向上とりサイクルの重要性などもお伝えしています。

### <鹿志村 愛さん> – 障がい者施設で体験 –

私が3日間体験をした「NPO法人えどがわ悠久会 就労継続支援B型事業所 YSG」(西一之江)さんは、障がいがあり一般企業に就職が難しい、または就職に不安がある方が、陶芸・カフェ・内職などの作業を無理のないペースで行える場を提供しています。YSGさんは、生活支援や自立支援を軸に、どのような場面でも利用者さんの声をしっかりと拾い、一人ひとりの意見を大切にしていました。私も体験中に参加した事業所運営に関する定例会議でも、職員と利用者が対等に意見を出し合っていました。このような環境が、利用者さんの自立に繋がっているのだと感じました。

また、体験中は利用者同士の「大丈夫?」「しんどかつたら休みなね!」という気遣いの言葉をよく耳にしました。このように支え合える仲間がいることも、自立には必要な要素だと思います。

今回の体験を通して、社会との繋がりが自立支援に繋がっていることを知り、働くことでしか得られないこともあります。私たちも障がいのある方と一緒に働いていますが、改めて学ぶことや気付かされることが多く、視野も広がり大変勉強になりました。今回の経験を、今後の活動にも活かしていきたいです。



### <下谷 優花さん> – 外国人の日本語サークルで体験 –

私が「日本語ふれあいひろば」(船堀)を体験先に選んだ理由は、学生時代の海外ボランティアでの体験を思い出したことがきっかけです。学生時代に所属していたボランティアサークルのメンバーでタイの大学を訪問する機会があり、そこで学生に日本語を教える日本人の先生に出会いました。その先生の影響で、「私も外国の方に日本語を教えてみたい」と興味を持った当時を思い出し、「夏のボランティア体験」にチャレンジしてみようと考え、今回の体験先を決めました。

私が4日間体験をした「日本語ふれあいひろば」の生徒さんは、話せる日本語のレベルにはらつきがありました。

私は日本語学校にも通う中国人の女性と2人1ペアになり、ニュース記事と一緒に読みながら分からぬ単語の意味などを教えていました。4日間同じ生徒さんを教え、身振り手振りを交えながら和やかな雰囲気で進めることができ、最後



には楽しかったとの感想をいただいたことがとても嬉しかったです。

また、日本語を教えることは文化の違いも把握しなければならず、日本語を真に理解していないと、教えるのは意外にも難しいということを実感しました。

今回の体験を通して、生徒さんとの会話の中で日本との文化や習慣などの違いを多く知ることができました。外国の方に関わらず、人は皆それぞれの文化や価値観を持ち、自分と他者との違いを感じることもあると思います。会社の中だけでなく、今後も様々な人と出会い、接する機会があると思いますが、そんな時に「他者の立場や考え方を尊重することの大切さ」を改めて大事にしていきたいと感じました。

# ボランティアさん情報

募集情報の掲載を希望される施設や団体の方は、  
ボランティアセンターまでご連絡ください。  
TEL 03-5662-7671 / FAX 03-3653-0740

## 「フードバンクおりなす江戸川」

企業や家庭から食品を寄付していただき、それらを区内6会場で、月2回食料を必要とするひとり親家庭・生活困窮者の方たちへお届けする活動を行っています。コロナ禍の影響で食料支援への需要は高まる一方で、人手が足りません。ご自分のできる範囲内の時間と活動でかまいませんのでご協力をお願いします。

- <活動の内容>
- ①食品の運搬(食品の受取り、会場までの運搬、受取りに来れない人への配達)
  - ②食品の管理(寄贈された食品の仕分け・箱詰め、お米などの袋詰め)
  - ③食品のお渡し(利用者の方の受付や食品のお渡し、毎月第二土曜日、第四水曜日に開催)
- <問合わせ先> フードバンクおりなす江戸川 代表 棚橋  
電話:080-1027-9235 E-Mail:fborinasu@gmail.com

## 東京23フトボールクラブ 23クリーンプロジェクト <駅周辺のゴミ拾い活動>

- |  |  |
|--|--|
| 1. 日 時:毎月23日(月1回)<br>集合時間:時間は午前10時<br>活動時間は30分～1時間程度(雨天中止)<br>※時間・場所については変更の場合があります。 | 4. 交通費・食事:なし<br>5. 服 装:動きやすく汚れてもいい服装<br>6. 問合わせ先:東京23フトボールクラブ<br>担当:高瀬(タカセ)<br>info@tokyo23fc.jp あてにメールで。<br>FAX:03-6808-2047 毎月20日まで受付け |
| 2. 場 所:主に東西線西葛西駅前(現地集合)  |  |
| 3. 募集人員:20名(どなたでも)   |  |

### みんなと考える 「障がい」「災害」「助け合い」講座開催

障がいを持っている方は災害発生時、どのようにして避難したらよいのでしょうか。避難には互いに支え合う「共助」が大切です。本講座では障がいをお持ちの方と一緒に災害時の避難について考えます。

**【開催日時】**令和6年1月27日(土) 10時～15時  
(防災食の試食があります)

**【主 催】**江戸川区福祉ボランティア団体協議会

**【参加費】**無料 **【定員】**区民30名程度(先着順)

**【会 場】**江戸川消防署・グリーンパレス  
※2会場の間で街歩きを予定

**【申し込み先】**12月19日の9時より  
当ボランティアセンターへ。  
電話・窓口・Googleフォームにて  
申し込み開始

### 里親と子どもの暮らしを聞いてみよう 「養育家庭体験発表会」

子どもたちを一定期間、自身の家庭で預かる里親さんと、ご両親が里親をされている家庭で育った実子さんに体験談をお話しいただきます。子どもたちのためにできることの一つとして、まずは知ることから始めませんか?

**【日 時】**令和5年12月16日(土)14時～16時

**【場 所】**総合文化センター研修室(中央4-14-1)

**【参加費】**無料

**【申込方法】**

江戸川区児童相談所

里親担当

電話03-5678-1810



### ボランティア団体登録数

登録団体数:163団体 登録人数:3,600人  
(令和5年10月末現在)



9月・10月分

使用済み切手 受領:39件/10.55Kg

ボランティアの振興に、有効に使わせていただきます

## 寄贈いただいた“ハロウィンの葉”を園児にプレゼントしました

10月24日に、「松江おひさま保育園」(海老沢 育子 園長)に“ハロウィンの葉”を25枚お届けしました。この葉は大杉にお住いの中⼭友莉子さんが昨年のクリスマスの葉に引き続き、寄贈していただいたものです。中⼭さんからは「ぜひ子どもたちが楽しいハロウィンを過ごしてほしいです」とのメッセージも添えられていました。かわいいカボチャとお化けの模様の葉で、園児たちはジャンケンをするなどとても喜びながら楽しそうに選んでいました。



葉を手に大喜びの園児たち

## 寄贈いただいた“刺し子の布”88枚を和楽苑にプレゼントしました

西小岩にお住まいの増田道子さんから刺し子の布を88枚寄贈いただきました。この刺し子の布を「特別養護老人ホーム和楽苑」にボランティアの横内さんを通じてプレゼントしました。なぎさ和楽苑で行われた地域食堂でお弁当とともに、地域の方へ差し上げました。

皆様大変喜んで、ひとつひとつ手に取り、楽しそうに選んでいました。作品のきめ細やかさに驚かれる方も多くとても好評でした。



いろいろな種類の刺し子の布



地域の皆さんにプレゼント

## 区民まつりのボランティアセンターのブースにご来場ありがとうございました

10月8日(日)に5年ぶりに「第46回江戸川区民まつり」が開催されました。当日ボランティアセンターのPRブースでは「バルーンコーナー」と「手話の体験コーナー」にたくさんの方々に来ていただきました。

「バルーンコーナー」ではボランティアさんが風船を作っても作っても追いつかず、行列ができるくらい盛況でした。「手話の体験コーナー」は小さいお子さんから熟年者まで多くの皆さんで終日にぎわいました。

ボランティアさん及びご来場の皆様ありがとうございました。



問合せ先 (公財)えどがわボランティアセンター ☎ 03(5662)7671